

女性を動かす
企画力、動員力が
自慢です

全国「リビング新聞」編集長の 私たちの読者はこれで動く！

全国 57 エリアで発行している「リビング新聞」。それぞれ地域に密着した個性を發揮していますが、共通しているのは、地元の女性読者を動かす企画力と動員力です。情報を伝えるだけではなく、読者を動かしてこそそのリビング新聞の編集長たちに、2015年のヒット企画を聞きました。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

藤崎由紀子

編集長



**特別な気分を味わいたい！
だって「主婦休みの日」だもの**

日常を離れてミセスのんびりできる時間は、家族の、そしてニッポンの元気に直結！というわけで、年3回ある「主婦休みの日」に合わせ、癒やしやおいしさたっぷりの「主婦休みの日特別プラン」を作ってもらっています。贅沢気分のプランが並ぶ中、大人気なのがお子さん連れでも気兼ねなく過ごせる老舗旅館の個室付き日帰り温泉プラン。今年は延べ1200人程の読者が利用。プランの満足度もさながら、言い訳の立つ設定がミセスの背中を押しているとも感じます。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島 郡山

鈴木朱美

編集部長兼編集長



**美と健康の祭典に800人が来場
福島県初の公式サイドイベントに！**

2014年に創刊30周年を記念して初開催した、美と健康に関する女性限定イベント「うねめラーゼのつどい」。第2回となった今年度は、ステージショーを充実させたり、人気の占いブースを設けたりしたことで、約800人が来場。また、外務省の女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム「シャイン・ウィークス」公式サイドイベントに申請し、県内初の認定イベントに。企業や自治体からも注目を集めました。美と輝きは、地域・年齢を問わず、女性のココロを動かす実感。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

和田美紀

編集長



**読者の心をつかむプランで
日帰りバスツアーは“満席御礼”！**

リビングとちぎ創刊25周年事業の一環で「編集長と行くスペシャル日帰りバスツアー」を企画。7月には筑波山ハイキング、10月には奥日光ハイキングを実施しました。女性に人気のランチと温泉、話題のスポット見学を盛り込み、さらにメーカー・企業に商品協力をいただき参加賞（お土産）や車中での楽しみ抽選会も行いました。両日とも大型バス1台・満席に！リビングならではのお得感と楽しさと交流を盛り込むことで、読者の心をつかみ、リビングにより愛着を持ってもらえる機会になりました。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

依田由利子

東葛本部 編集長



**リビング新聞だけのタカラヅカ！
観劇&OGの事前学習会で夢の時間**

宝塚歌劇団星組のトップスターに、地元出身の北翔海莉さん就任というビッグニュースが飛び込んできた2015年。北翔さんの大劇場お披露目公演チケット付きで、事前学習会&ティーパーティーを企画しました。講師は宝塚OGの歌手で歌劇団音楽講師。宝塚マル秘トークや歌のレッスン、これから鑑賞するミュージカルの講義に特製スイーツと、参加型で密度の濃い内容に知的なツカファンの読者は大興奮。チケット事業も展開するリビング新聞だからこそ特別な時間を過ごしたのでは。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京副都心
東京西 東京南 東京東 東京リビング

和田直子

東京本部 編集長



**読者と一緒に地方を応援！
大好評・女性杜氏の会、続編中**

2013年から継続して開催してきた「女性杜氏の会～日本酒とフレンチのマリアージュ」がついに10回目を迎え、東京リビング創刊20周年記念イベントとして100名の読者が参加。当日は9人の女性蔵人が、新酒を携えて駆けつけました。今回はお酒2種類にお料理1品を創作する、総料理長にとってもチャレンジな会。参加者は絶妙な取り合わせに舌鼓を打ちました。食後は蔵元のそのほかのお酒もたっぷり試飲して、その場で購入。大好評の本会は現在も継続、既に14回を重ねています。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

石川香里

武蔵野本部 編集長



**GWはお出かけだけじゃない！
どうやって地元を集客する？**

中規模な商業地（武蔵野市）はゴールデンウィーク商戦が厳しい。そんな状況を打開したのが「キッズ・ダンスフェスティバル」。GWに地元のファミリー層を集客したいSCの屋外広場で18チームの子どもダンサーが参加（出演募集はリビング新聞及びWeb）。家族だけでなく、お友達やダンス仲間など300人以上が応援に駆け付け、大いに盛り上がりました。出演チームの各々がHPやSNSに事前告知したほか、当日のダンスをYouTubeにアップ。子どもネタの集客力がすごい！

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

佐藤順子

埼玉本部 編集長



**街・企業・競合媒体を動かした
「大宮ナポリタン スタンプラリー」**

大宮に新しい名物を、と発足した「大宮ナポリタン会」。リビングではいち早く特集し、全加盟店に交渉&カゴメの商品協賛を取り付け、スタンプラリーを実施。この記事がテレビ局、地域紙の目にとまり取材合戦を誘発しました。また、埼玉県の要望で県のイベントでカゴメとコラボしたPRを展開したほか、プロデューサーとしても「大宮ナポリタン」の情報を拡散。JR東日本大宮支社にはキャンペーンコンテンツとして紹介、山崎製パン埼玉工場とはコラボ商品開発が進行中です。

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

島田文美子

千葉本部 副編集長



**ジモトのよさを再確認
船橋から日本文化を発信！**

和文化への関心が高まる今、主婦休みにちなんだイベントを市内の会場で開催しました。一つは百貨店での「和本づくり」で、江戸・明治の実物の解説付き。もう一つは、茶室での「日本茶教室」で、日本を愛するフランス人講師によるものです。文化伝統のあるまち・船橋を舞台に、工夫した内容で遠方からもたくさんの方が集まりました。アクティブなリビング読者の層の厚さを実感。用意した地元の和菓子も、地域のよさを知るきっかけになりました。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

大石登子

千葉本部 編集長



**当選確率16倍！
定員79人のツアーに1288人の応募**

南房総市と組んで企画したバスツアーは秋の里山がテーマ。「おいしい里山」を読者に楽しんでもらう～とモリモリの企画に。みかん狩り&千葉の郷土料理食べ放題、各道の駅で濃厚牛乳の試飲やみかんドーナツ、名物・さんが焼きや花摘み付き。さらに紅葉の名所や料理の神様も詣でて、「ふるさと割」の補助で4900円。79人の募集に1288人を超える応募が！ 地元野菜や花など、両手いっぱいのお土産を抱えてツアー終了。これからも千葉のいいところを紹介します。ご期待ください！

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美

多摩本部 編集長



**やりたい仕事は自分で作る！
主婦のための起業セミナーが大人気**

リビング新聞で展開している企画「ホップ・ステップ・ワーキング」に連動して、起業を目指す女性たち向けに「主婦のためのおしごとセミナー～起業編」を企画したところ、30人の定員に対し、倍の60人超の応募が！ 急速、会場を広くして実施しました。集まったのは、自宅サロンで教室を開きたいという人から、カフェの経営を考えている人までさまざま。ここ多摩エリアは、起業志向の女性が多いと言われるようになりましたが、それを裏付ける高レスポンスとなりました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 横浜南

今野直子

横浜本部 編集長



**読者にいつも会えるから
地域が見える、読者を動かせる！**

名所と食を楽しむ「リビング横浜おいしい横濱めぐり」は毎月開催なので多くの読者と出会えます。「これからの人生」に役立つ相続や住宅等のセミナー&相談ブースを用意した「これから博」は夫婦で、園児とママの情報誌「あんふあん神奈川版」の催し「ファミリーフェス」は3世代で参加する人も。会場で地元横浜のネタをもらうこともあります。また、「シティリビング横浜」と百貨店のコラボで生まれた、読者OL発案のお弁当は連日完売！ 読者がそばにいれば地域が見える、読者を動かせる！

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

林ひろ子

編集長



**主婦休み、スイーツとカフェの検定で
田園ダム心の心をつらりホールド！**

主婦休みの日一緑と海の見える独特な景色、鎌倉を舞台に四人姉妹の葛藤を日々の暮らしで綴った「海街diary」試写会に読者を招待。「田園通」を自称する田園ダムたちのココロくすぐる春スイーツや、新メニューが売りの「秋カフェ」特集を兼ねて紙面+Webで検定を実施。晩秋は、東急たまプラーザ テラスで年一度の恒例アートイベントが今年数えて10回目の晴れ舞台。顧客に対応するコールセンターからは、早めに展覧リストが欲しいといわれるまでに成長・定着したのが自慢でもありました。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増渕直子

編集長



**「町田スイーツフェスタ2015」開催
狙い通り！ ファミリー層が9600人**

リビングまちだ・さがみ創刊 35 周年記念「お菓子なまちだ～町田スイーツフェスタ 2015」を 10 月に開催。「女性・子ども・ファミリーが喜ぶ」をテーマに、地元の人気お菓子が勢ぞろい。ハロウィン仮装大会&お菓子ラリー、スイーツレシコンテスト、ヒーローショー、手作り品展示販売など、食べて・見て・遊んで、家族で笑顔になれる 2 日間の集客は 9600 人！ 客層は子ども連れ主婦・ファミリーと狙い通りで、リビングらしいイベントになり大盛況！ 行政にも媒体を PR する良い機会となりました。

Nagoya

名古屋リビング新聞社 リビング名古屋中央
名古屋東山の手 名古屋みなみ新都心
名古屋イースト 名北がすかい・こまき

中島幸子

編集部長



**「野菜を食べようキャンペーン」実施中
“野菜たべ隊”の活躍で摂取量アップ？**

野菜の摂取量全国ワースト 1 という不名誉な記録を更新している愛知県。「リビングがなんとかしくては！」と、「野菜を食べようキャンペーン」を実施中です。読者による「野菜たべ隊」を結成し、facebook で野菜に関する情報を投稿してもらっていますが、レシピ、上手な切り方、野菜がおいしい店など、役立つ情報が続々！ 手をかけずして紙面も作れるみんなが美味しい企画。ぜひ facebook をのぞいてみてください。“野菜たべ隊” (<https://www.facebook.com/livingyasai/>)

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪・兵庫

川楠洋子

クリエイティブセンター部長



**美しさ、家族の健康を守る！
食ブームを先取り、手作り派読者が多数**

必須栄養素や健康成分を多く含む「スーパーフード」、食材を低速圧縮し搾り出す「コールドプレスジュース」。話題の食をテーマに 5 月 16 日号で特集を掲載し、Web でも「わが家の美 & 健康手作りジュース」を募集。果物、野菜はもちろん、チアシード、稀少糖など最新の食材を取り入れたレシピがカラフルな写真とともに 100 件以上集まりました。最新の情報を取り入れ、家族の健康を考えながら、美を意識したセンス光る暮らしぶりが浮き彫りに。相互に「ステキ」なコメントも行き交う企画となりました。

Shonan

湘南リビング新聞社 リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

川戸真澄

編集長



**ホテルやマリナーとのコラボランチ
至福の「主婦休み」に読者応募殺到**

昨年 5 月 23 日付で読者限定「主婦休み」ランチ企画を 2 件実施しました。1 つは、6 月 17 日開催「大磯プリンスホテル・シェフ特別ランチ」(1 万 2000 円相当フルコース→5000 円) で配布直後に完売し、その後も問い合わせが殺到。もう 1 つは、「葉山マリナー・平日限定クルージング&ランチ」(通常 4320 円→3240 円) で 5 月 25 日～6 月 29 日の期間中に 258 人が利用。前年同時期、湘南地域からの来場者が 5 人だったのが 214 人と 4280% 増に！ 両コラボ先も驚きのレスポンスでした。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

山本和子

副編集長



**人生はまだまだ楽しい！
「en活フェア」に多数来場**

滋賀リビング新聞社では 2 回の「終活セミナー」をステップアップさせた「en 活フェア」を 10 月に開催しました。イベント会場では、弁護士や税理士のほかに、旅行会社、結婚相談所などのブースでは、これから楽しむための相談会を。隣室の講演会・セミナー会場では、小山明子さんの講演会、税理士などのセミナーを行いました。事前にリビング紙面で参加者を募集。講演会・セミナーそれぞれ 80 人の定員はいっぱいになり、当日席も埋まるなど、好評なイベントとなりました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世

編集部 副編集長



**時代を超えた友情が世界平和の礎に
「海難1890」試写会に1323通の応募**

昨年 12 月 5 日に全国公開された「海難 1890」。これは、1890 年に和歌山県串本町沖で起きた軍艦エルトゥール号遭難事件から続く日本とトルコの絆を描いた物語。地元ロケもあり、人類愛に満ちた先人たちの心意気に改めて触れ、こうした想いが世界平和を紡ぐのだと胸に迫る大作が誕生しました。リビング紙面では特集を組んで試写会を企画。応募は 1323 通あり、読者の関心を集めました。抽選で 180 人を試写会に招待。時代を超え受け継がれてきた両国の友情が深い感動を呼びました。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理

編集部 編集長



**静岡のひとあし早いクリスマス
心あたたまる手づくりホビーを体感**

模型と手づくりホビーの祭典「クリスマスフェスタ」では、毎年、リビング静岡がラッピング紙面を作り、当日、フロアガイドとして来場者に配っています。本職から趣味まで幅広い人に門戸が開かれ、当カルチャーセンター講師がブース出展をしていることもあります。心あたたまる手づくりホビーや魅力あふれる模型などを見て、買って、体験できるので、お気に入りの出展ブースを目当てに、2 日間で 4 万もの人が訪れます。今後も静岡の一大イベントを盛り上げていきたいです。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

山舗恵子

編集長



**話題の「樹木葬」を知るツアーに
増便後も、キャンセル待ちに**

紅葉が美しいと知られる東福寺をはじめ、大徳寺、建仁寺など、京都の有名寺院の塔頭を巡って「樹木葬」について学ぼうという、日帰りバスツアーに注目が集まりました。バスの中で専門家の話を聞きながら、現地を見学、昼食付きで参加費 3980 円という手軽さもよかったのでしょうか。定員 40 人のところ、1 回の告知で申し込みが続々。急ぎよ追加で別日を設定、ツアーは 2 回実施しましたが、キャンセル待ち 30 名を残したままでした。エンディングをしっかり考える読者が多いと実感。

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川

桑田稜子

副編集長



**姫路城のグランドオープン企画で
読者が城の魅力を再発見**

世界文化遺産・国宝姫路城が昨年 3 月にグランドオープンしました。それに合わせて、姫路城お目見え号を発行。城にまつわる読者のエピソードを紹介したほか、編集部がおすすめする 10 カ所のビューポイントや千姫に変身できる体験スポットを掲載しました。読者からは「数十年ぶりに登城したかった」とか「角度によってお城の見え方が違うんですね。確かめてみます」といった多くの感想が。地元で有名な場所やモノでも深く掘り下げると、新たな魅力を届けられると認識！

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま くらしき

新山 錬

執行役員編集長



**“体内年齢、って知ってる？ がキモ
高い関心を示し、イベント追加開催も**

年齢を重ねても元気な人もいれば、若いのに病気がちで見た目も老けて見える人もいます。「それは実年齢では量れない“体内年齢、の違い？」と、ミセスの気になるフレーズが紙面に躍った「AGEs を知って、ストップ！老化 & 病気」(8 月 22 日号)。同時期に開かれたイベント「AGEs 無料測定会」(定員 30 人) は 100 人超えの申し込みがあり、測定会を追加開催。11 月の「リビング終活フェスタ 2015」でも、測定会ブースに多くの人だかりができました。“体内年齢は何歳？、がキモでした。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

石川恭子

編集部長 編集長



**史跡 高松城跡でヨガイベント
ミニマルシェ出店も好評**

カルチャー教室でも人気のヨガですが、最近では“意外な場所 & 大人数”パターンも多いよう。その流れを受けて開催したのが「披雲閣 de YOGA」。史跡 高松城跡「玉藻公園内の披雲閣」が会場ということもあり、午前中を中心にほとんどのクラスで定員 50 人がキャンセル待ちに。若い世代が多かったのも特徴でした。また、「座禅」クラスの設定や、生活提案雑誌を発行する地元出版社がおにぎりのお店を出店するなど、ミニマルシェも登場。“一度でいろいろ楽しめる”のも好評の理由です。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

前田和美

編集長



**昼も夜も、肉、肉、肉…の5日間
6万6000人来場の“肉フェス、**

2015 年 3 月 25 ～ 29 日、地元の新聞社、テレビ局、FMラジオ局との共催で、弊社創業 30 周年記念「天神まちの駅・肉フェスティバル」を開催。のべ 6 万 6000 人が来場しました。場所は福岡一の繁華街・天神のど真ん中。肉ゾーンには焼肉やステーキ、地鶏焼き、馬肉 1 本焼き、もつ鍋、カレー、肉寿司やフォアグラ寿司など多彩なメニュー。ドリンクコーナーや信州・松本市のご当地グルメ「山賊焼き」も登場。1 回では食べ切れず、昼と夜、また連日通う肉食女子もいたようです。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

綿谷千恵子

編集部 編集長



**家族でカブトムシの幼虫探し
里山の自然を100人が体験！**

子どもたちに自然との触れ合いの場を―と毎年開催しているイベント「カブトムシの幼虫を探そう」。今年は、里山を整備し、竹炭作りやシイタケ栽培、カブトムシの幼虫が育つ土壌作りなどの活動をしている「山手津の郷里山里地を守る会」の協力で、カブトムシの幼虫探し、シイタケの収穫、原木に菌を植える“植菌作業、などに挑戦。昔ながらの羽釜で炊いたご飯で作ったおにぎりもいただき、大好評でした。子ども・大人合わせて約 100 人が参加。里山の自然を満喫しました。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

小原明美

常務取締役編集長



**自分と親の老後の明るい未来
学んで準備の時期**

アラフィフ世代は自分の老後を視野に入れつつ、夫婦でマックス 4 人の親の問題にも直面。わが社ではそんなニーズにも応え「おとな大学」を随時開催しています。テーマは介護、リフォーム、相続、医療など。27 年秋には協賛社を得て「終活フェア」も実施。親子での入場や親のことで参加という方もいました。自分と親のダブル未来をスッキリさせておかないと、仕事もプライベートも元気ではいられない…。高齢社会がゆえに生まれたこの気持ち。今後のスタンダードになるのでは。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子

編集長



**3カ月間で2700人以上が利用した
リビング熊本限定のディナーコース**

月 1 回・計 10 回の連載形式で行ってきた「素敵にディナー推進プロジェクト」。たまには本格的なお店に予約をして出かけ、コース料理を楽しむことを再提案してきました。最終回は県内随一の知名度を誇る熊本ホテルキャッスル内の「中国四川料理 桃花源」に特製コース(税別 5000 円)を依頼。熊本の四川料理を牽引してきた同社社長の斉藤隆士さんに想いを熱く語っていただきました。名店のコラボ限定という仕掛けで、3 カ月合計 2756 人利用という高レスポンスに繋がりました。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

高山由美子

副編集長



**創刊35周年記念第一弾企画
約4万3000通の驚異的レスポンス！**

2015 年に創刊 35 周年を迎えたのを機に、1 月 31 日号で「年賀状ラッキープレゼント」を掲載。年賀はがきの対象番号を切り取り、はがきに貼って応募という少し手間がかかる仕組みにもかかわらず、約 4 万 3000 通もの応募がありました。家電製品、お酒、お菓子詰め合わせなど、家族みんなが喜ぶ豪華な賞品が受け、弊社としては驚異的なレスポンスを記録。クライアントには「読者を動かすリビングパワー」を知っていただく結果となりました。

Kitakyushu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

植田詩生

編集長



**イベントの参加費は空き缶！
楽しみながら取り組むエコライフ**

“世界の環境首都、を目指す北九州市で毎秋開催される環境イベントで、ブース「環缶ランド北九州」を出展。来場者から参加費として空き缶を回収、収益金を寄付しています。2013 年まではフリーマーケット(出店料空き缶 70 個 + 1000 円)でしたが、エコライフに取り組む読者が年々増えている感触があったため、より参加しやすいよう内容変更。空き缶 5 個で景品と交換できるようにしたところ、2015 年は約 600 人が持参した空き缶 70kg をリサイクルできました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子

編集長



**女性のアイデアで街を元気に！
初のアワード「キラリ女性大賞」が好評**

少子高齢化で労働人口が減少する中、女性の活躍を支援する動きが広がっています。そんな中、創設した「かごしまキラリ女性大賞」。情熱溢れるアイデアで活動する女性を表彰するアワードで、31 人の応募の中から受賞者 5 人を決定しました。子育て中の気づきをヒントにベビーギフトを開発、70 代で子育てママ対象のカフェをオープン、などチャレンジ精神旺盛な受賞者の面々に、「自分もやりたいことに挑戦しよう」と勇気もらった」と読者に大好評。ミセスゴゴロの刺激につながりました。